

# インタープリメント幹事会・理事会報告

インタープリメント理事・学術委員 丸井英明 (まるい ひであき)

## 1. はじめに

国際防災学会インタープリメント本部の幹事会、理事会が連続して2010年11月4日、5日にかけて、同本部が設置されているオーストリア南部ケルンテン州の州都クラゲンフルト市において開催された。さらに、8日には学術委員会がドイツ連邦共和国バイエルン州の州都ミュンヘン市において開催された。以下に幹事会、理事会における議事の概要について報告する。今回の本部会議での主要な議事内容は、本年4月末に台湾の台北市で開催された環太平洋インタープリメント会議の報告並びに、2012年4月にグルノーブル市で開催予定であるインタープリメント第12回大会の準備状況の確認であった。

## 2. 幹事会

11月4日に開催された幹事会は正副会長、事務局長を中心とする役員会であり、翌日の理事会に先立って今後の方針の骨子を議論する会議である。定例に従って、会長挨拶に続き、議事次第の確認、前回議事録の確認を経て、議事が進行された。まず、インタープリメントの最近の活動状況に関し、コボルチュニク事務局長から報告がなされた。一つは、アルプス地域における種々の山地災害を統一的な書式で記載するためのマニュアルである[DOMODIS]のフランス語版の作成についての報告であり、今一つは流木問題に関する研究会の成果として、ドイツ語版のパンフレットが作成されたことの報告であった。

今回の幹事会における主要議事の一つは、本年4月に台北市で開



幹事会にて協議中の池谷副会長(右より3人目)

催された第3回環太平洋インタープリメント会議の総括であった。コボルチュニク事務局長から会議内容に関する概要説明が行われた。大会参加者は258名を数え、参加国数は15カ国に及んだとのことである。日本からは20数名、オーストリアからは10数名の参加状況であった。発表論文集に採録された論文数は100篇に上っている。また、フィールド・エクスカッションが3種類用意され、特にヨーロッパ諸国からの参加者にとっては、台湾の代表的な山地災害の一端を見聞する絶好の機会が提供され、好評であったとのことである。これまで2回にわたって日本で開催された環太平洋の会議では、それぞれ砂防行政官サミットも開催されたが今回の台北では開催されなかった点について質疑があった。一方、2012年にグルノーブル市で開催予定である第12回大会についても、現地の国立研究所CEMAGREFの主導で準備は着々と進められており、準備作業の現況に関する報告があった。

## 3. 理事会

11月5日には理事会が開催された。定例通り、会長挨拶に引き続き、議事次第確認、前回議事録確認を経て、議事が進行した。理

事会においても、4月に台湾の台北市で開催された第3回環太平洋会議の報告がなされた。特に、ローナー会長から会議中並びにエクスカッション中の映像を用いた丁寧な説明がなされた。環太平洋における研究活動を評価し、今後も同地域でインタープリメントの活動を意欲的に展開していく姿勢が窺えた。さらに、2012年のグルノーブル大会の準備状況に関して、事務局長並びに学術委員長から今後のスケジュールなどを含めて詳細な報告がなされた。

砂防行政官サミットに関しては、4月の台北市における環太平洋会議では省略されたこともあり、グルノーブル大会においては充分な準備をもって望むことが確認された。その際、砂防サミットはそもそも1992年のベルン大会において日本からの提唱で始まったことなど、これまでのサミットの経緯に関して池谷副会長から補足説明がなされた。グルノーブル大会に際しては他のスケジュール等と重ならない形で金曜日に十分な時間をとって開催する意向であることが示された。

なお、次回の幹事会・理事会は2011年3月31日、4月1日にクラゲンフルト市で開催される予定である。